

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用情勢や企業収益の改善が進むなか、個人消費や設備投資において持ち直しの動きがみられ穏やかな景気回復が続きました。

このような経営環境のもと、当社グループは、主力とする調剤薬局事業におきましては、安全性を最優先としつつ「患者のための薬局ビジョン」の実現に向けた取り組みを進めております。ヘルスケア事業におきましては、上期に続いて有料老人ホームの継続的な入居者確保を推進し、事業規模および収益拡大に努めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高23,158百万円(前年同期比4.7%増)、営業利益1,164百万円(同41.8%増)、経常利益1,124百万円(同44.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,051百万円(同67.0%増)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、前期にグループ会社化した子会社および前期、当期出店の3店舗の寄与により、売上高は16,830百万円(前年同期比0.8%増)となりました。利益面では原価管理の強化を図ったことにより、営業利益1,311百万円(同16.8%増)と増益となりました。

#### (ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、有料老人ホームの継続的な入居者確保、および平成28年9月にグループ化したウェルフェア株式会社が寄与し、増収増益となりました。

この結果、売上高4,448百万円(前年同期比20.2%増)、営業利益293百万円(同105.7%増)となりました。

#### (医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、三重県、岐阜県、滋賀県および愛知県を中心に積極的な営業活動を行った結果、増収増益となりました。

この結果、売上高1,783百万円(前年同期比8.6%増)、営業利益88百万円(同70.8%増)となりました。(内部売上を含む売上高は2,421百万円となり、前年同期比で13.3%増加しました。)

#### (不動産事業)

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高96百万円(前年同期比4.4%増)、営業利益52百万円(同15.3%増)となりました。

また、投資事業におきましては、投資有価証券売却益および投資その他の資産の売却益530百万円を計上しております。

なお、セグメント間の内部売上高として664百万円を消去するとともに、全社における共通経費として583百万円を計上しております。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は26,823百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,914百万円増加いたしました。

流動資産の合計は12,429百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,908百万円増加いたしました。これは主に、売掛金が737百万円、流動資産のその他が568百万円、現金及び預金が519百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

固定資産の合計は14,393百万円となり、前連結会計年度末と比較して6百万円増加いたしました。これは主に、投資有価証券が442百万円増加したものの、建物及び構築物が252百万円、のれんが115百万円それぞれ減少したこと等によるものです。

負債合計は17,598百万円となり、前連結会計年度末と比較して784百万円増加いたしました。これは主に、流動負債のその他が629百万円、買掛金が398百万円それぞれ増加し、長期借入金(1年内返済予定を含む)が265百万円、賞与引当金が183百万円それぞれ減少したこと等によるものです。

純資産合計は9,225百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,129百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が897百万円、その他投資有価証券評価差額金が236百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の業績予想につきましては、平成29年7月19日公表の数値から変更はありません。